

一般 女性の視点を加え多様な防災対策

倉部 光世（市民ネット）



多様な人々への配慮のためにも女性の視点も加えて災害対応を見直すことが求められている。

Q 女性に向けた講演会等行われているが防災に興味を持つ女性は増えているか、アンケート結果は。

A 避難所運営委員会の女性は徐々に増えているが、家事・育児・介護が忙しい、防災活動は男性が主というイメージが強いという回答が最も多く、内容、開催日時や会場設備を工夫していく。

Q 女性職員が危機管理課に配属され見直された点は。

A 同報無線、災害対策本部内の災害事案の読み上げは男女の区別なく対応するとした。

Q 女性の防災参画を推進するため、まずは庁内に「防災女子の会」を発足する必要性は。

A 女性職員を中心に活動するチームを検討している。女性の防災活動への参加や参画を全庁的な課題として捉え今までは違った。

視点で女性職員も知恵を出し合っていく。

Q 県が進めているわたしの避難計画「わたひな」の取組は。

A 今後、出前講座等の機会を捉えて「マイ・タイムライン」と「わたしの避難計画」の特徴や活用方法を分かりやすく説明し、早期避難意識の醸成を図っていく。

他に「GIGAスクール構想のこれから」と「行政と市民をつなぐ広報戦略」について質問しました。



一般 学校教育における子どもの心のサポート

織部 ひとみ（みどり21）



子どもや若者の自殺が、夏季休暇明け前後に増加する傾向にあります。厚生労働省の統計によると、2022年の全国の小中高校生の自殺者数は514人で過去最多となり、未来の宝である子ども達が1年の間に、平均して毎日1人以上が命を落としていく現状は、あってはならないことだと考えます。市では、心の教室相談が設置され、子どもの心の現状とサポートへの取組について伺います。

Q 心の教室の年間の相談状況と件数は。

A 心の教室相談員は、市内の3中学校に1名ずつ配置。家庭内の心配事、友人関係、進路についての悩み等、令和4年度の1年間で31件の相談があった。

Q 心の状態はどのような頻度で調査されているか。

A 定期的に生活アンケートを学校ごとに、年間3回から5回実施している。

Q 子ども達への心のケアの取組は。

A 健康観察アプリリーバーによる保護者からの出席連絡、健康観察、保健室への来室記録など、生活のあらゆる場面の精神的な支援。

Q ゲートキーパー研修の実施状況は。

A 実施はしていない。子供達へ寄り添い、声をかけ、話を聞き、必要に応じて関係機関に繋げる。

Q 自殺リスクや精神不調を早期に見発することができ、タブレット端末で特別なソフトを使い、子どもの自殺リスクを見つける取組は。

A 1人1台端末を活用し、相談フォーラムの開設や健康観察、教育相談の取組について研究。

